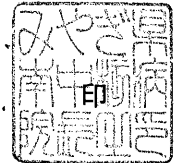


番号  
令和元年 10 月 1 日

宮城県知事 殿

住 所 宮城県柴田郡大河原町字西38-1  
申請者  
氏 名 みやぎ県南中核病院  
病院長 内藤 広郎



地域医療支援病院の業務報告について

標記について、医療法第12条の2の規定に基づき、平成30年度の業務に関して報告します。

記

I 概要

1 開設者の住所及び氏名

住所	〒989-1253 宮城県柴田郡大河原町字西38-1
氏名	みやぎ県南中核病院企業団 企業長 下瀬川 徹

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 地域医療支援病院の名称

みやぎ県南中核病院
-----------

3 所在の場所

〒989-1253 宮城県柴田郡大河原町字西38-1	電話 (0224) 51-5500
-------------------------------	-------------------

4 病床数

精神病床	感染症病床	結核病床	療養病床	一般病床	合計
床	床	床	床	310床	310床

## II 業務報告

### 1 紹介患者に対する医療提供及び他の病院又は診療所に対する患者紹介の実績

地域医療支援病院 紹介率 A/B - (C+D+E)	85.2%	算定 期間	2018年 4月 1日～ 2019年 3月 31日
地域医療支援病院 逆紹介率 F/B - (C+D+E)	80.3%		
算出 根拠	A : 紹介患者の数	10,766人	
	B : 初診患者の数	24,255人	
	C : 地方公共団体又は医療機関に所属する救急自動車により搬入された患者の数 (初診に限る)	2,501人	
	D : 休日又は夜間に受診した救急患者の数 (初診に限る)	9,120人	
	E : 健康診断を目的とする受診により、治療の必要性を認めて治療を開始した患者の数 (初診に限る)	0人	
	F : 逆紹介患者の数	10,148人	

(注) 1 紹介率及び逆紹介率は、小数点以下第1位まで記入すること。

(注) 2 それぞれの患者数については、前年度の延数を記入すること。

### 2 共同利用の実績

医療機関延べ数 (うち開設者と直接関係のない医療機関延べ数)	45 機関 ( 44機関)
共同診療件数	0件
医療機器共同利用件数	1,222件
共同利用病床数	5床
共同利用病床利用率	0%
共同利用施設・設備	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 施設関連 : 講堂・研修室、会議室、図書室、救命救急センター外来</li> <li>2. 医療機器 : コンピューター断層診断装置、磁気共鳴診断装置、心臓血管カテーテル装置、消化管内視鏡装置、超音波診断装置 (腹部、心臓)、体外衝撃波結石破碎装置、R I (ガンマカメラシステム)、骨密度撮影装置</li> <li>3. I T 関連 : 電子カルテシステム オーダーリングシステム、H I Sシステム、R I Sシステム、P A C Sシステム</li> </ol>

### 3 救急医療の提供の実績

#### (1) 重症救急患者のための病床の確保状況

優先的に使用できる病床	12床
専用病床	12床

(注) 一般病床以外の病床を含む場合は、病床区分ごとに記載すること。

#### (2) 救急医療の提供の実績

救急用又は患者輸送自動車により搬入した救急患者の数	3,621人 (3,664人)
上記以外の救急患者の数	13,801人 (13,859人)
合計	17,422人 (17,523人)

(注) それぞれの患者数については、前年度の延べ数を記入すること。

括弧内には、それぞれの患者数のうち入院を要した患者数を記載すること。

#### (3) 救急用又は患者輸送用自動車

救急用又は患者輸送用自動車	1台
---------------	----

#### 4 地域の医療従事者の資質の向上を図るための研修の実績

##### (1) 研修の内容

宮城県南登録医会：2回 112名
緩和ケア研修会：1回 21名
看護部地域公開講座：2回 37名
宮城仙南嚙下勉強会：7回 88名
仙南医療圏地域包括ケアシステム情報交換会：3回 51名
看護部出張講座：8回 305名
仙南地区周産期地域連携会議：1回 40名
県南運動器外科検討会：6回 54名

##### (2) 研修の実績

地域の医療従事者への実施回数 ※当該病院以外の地域の医療従事者が含まれるもの	30回
上記の合計研修者数（うち院外参加者数） ※前年度の研修生の実数	708人（538人）
研修プログラムの有無	あり
研修委員会設置の有無	あり
研修指導者数	9人
研修施設	講堂、研修室、大会議室、救急研修室、臨床研修管理室、CT室1、MRI室1、MRI室2、MRI室3、血管造影室1、血管撮影室2、RI室、X線TV室1、X線TV室2、X線TV室3、乳房撮影室、歯科・骨密度撮影装置、放射線治療室、位置決めCT室、救命救急センター外来、内視鏡室（6室）、超音波室、超音波室2

5 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の体系的な管理方法

管理責任者氏名	病院長 内藤 広郎
管理担当者氏名	情報診療部長 上野 達也

		保管場所	分類方法
診療に関する諸記録 病院日誌、各科診療日誌、処方せん、手術記録、看護記録、検査所見記録、エックス線写真、紹介状、退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約		各担当部署	電子カルテ
病院の管理及び運営に関する諸記録	共同利用の実績	地域医療連携室	
	救急医療の提供の実績	救命救急センター	
	地域の医療従事者の資質の向上を図るための研修の実績	地域医療連携室	
	閲覧実績	医事課	
	紹介患者に対する医療提供及び他の病院又は診療所に対する患者紹介の実績の数を明らかにする帳簿	地域医療連携室	

(注) 「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。

6 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び閲覧の実績

閲覧責任者氏名	病院長 内藤 広郎		
閲覧担当者氏名	医事課 梅宮あかね 鈴木堯		
閲覧の求めに応じる場所	みやぎ県南中核病院 会議室（1階）		
前年度の総閲覧件数	37件		
閲覧者別	医師	0件	
	歯科医師	0件	
	地方公共団体	0件	
	その他	37件	

7 医療法施行規則第9条の19第1項に規定する委員会の開催の実績

委員会の開催回数	1回	
委員会における議論の概要		
<p>(1) 新規委員紹介（荒井副院長）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●委員会要綱変更について（高橋主事）              当院は1市3町の構成により運営されているが、当院の利用者が仙南医療圏全体に拡大していることも踏まえ下記のとおり要綱変更を実施する。</li> <li>第2条（組織）             <ul style="list-style-type: none"> <li>・柴田郡医師会2名から1名（人数減）</li> <li>・角田市医師会2名から1名（人数減）</li> <li>・白石市医師会1名（追加）</li> <li>・仙南歯科医師会1名（歯科医師会統合により変更）</li> <li>・学識経験者として（文言削除）</li> <li>・仙南地域医療対策委員会運営委員長（委員から委員長へ変更）</li> <li>・仙南医療圏2市7町（参集範囲の拡大ため変更）</li> <li>・看護管理者（追加）</li> <li>・地域連携室副室長（追加）</li> </ul> </li> </ul> <p>(2) みやぎ県南中核病院現況報告</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●平成28・29・30年度診療実績（押野医事課長）              平成30年度診療実績は、外来延患者数160,971人で前年比2,772人増、月平均13,414人で648.4人増となり、入院延患者数は84,023人で前年比219人増、月平均7,001.9人で189.1人増であった。平成30年度は平均在院日数が短縮され、病床回転率が向上した。紹介患者数は10,766人で前年比53人減、紹介率が85.2%、逆紹介患者数は10,148人で前年比107人増、逆紹介率が80.3%であり、紹介率、逆紹介率ともに地域医療支援病院の要件を満たしている。              平均在院日数は10.1日で0.7日減、病床稼働率は74.3%、実稼働病床263床では87.5%であった。救急搬入患者数は3,621人で前年比43人減、内訳として入院が1,826人、外来が1,795人であり平成30年度は入院が外来を31件上回る件数となった。ドクターヘリについては入院が前年比3人増の16人、外来が前年比2人増の8人であった。</li> <li>●登録医・医療機関数の報告（高橋主事）              平成31年4月1日現在、登録医数は医科182名、歯科113名の計297名である。医院数は、医科143件、歯科105件、登録医数は医科歯科ともに直近2-3年において大きな変動はなかった。</li> <li>●地域医療連携室利用状況（高橋主事）              平成30年度地域医療連携室取り扱い件数は、14,660件で前年比330件増、診療科別件数として歯科口腔外科が前年比210件増の1,968件、整形外科が前年比161件増の416件となっている。市町別にみると柴田町が前年比212件増の3,254件、丸森町が123件増の796件となっている。              平成20年度と比較した結果、構成市町からの紹介割合が7.69%減、構成市町を除くその他の仙南医療圏からの紹介が7.31%増となっている。</li> <li>●医療福祉相談室報告（猪狩医療福祉事業係長）              平成30年度は地域医療相談室に退院調整看護師が1名着任し、入院患者全員へのスクリーニングを開始し、退院が困難な患者を早めに把握することで入院日数の短縮に努めた。平成30年度相談件数が1,517件うち退院相談件数が1,148件とスクリーニングの影響もあり150件程度増加した。診療科別の介入状況については、外科回診に相談員が同行することにより件数が増加している。相談室では総退院数7,622人のうち1,120人の患者に対して退院援助を実施した。</li> </ul> <p>(3) 各センター等活動報告</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●腫瘍センター・緩和ケア病棟（高橋主事代読）              化学療法室では医療スタッフがチームを組み診療に当たっており、臨床心理士が新たに国家資格となり公認心理師となった。また、今年度から地域がん診療病院の認定を受けている。</li> <li>●救命救急センター（古川救急主任部長）              平成30年度の救急外来患者数は17,422人で昨年度より83人減少している。救急患者数については、同等規模の県内他施設と比較しても多い状況である。昨年度末に川上センター一長の退職があったが、体制を維持し変わらず受け入れを行っている。また、夜間初期</li> </ul>		

急患センターの運用により患者数減につながっていると考えられる。

- 消化器病センター（佐藤消化器病センター長）  
消化器内科10名、外科10名で診療を行っており、スタッフの充実により、昨年度から肝臓、すい臓の専門外来を開始した。内視鏡件数については昨年度8,920件と年々増加している状況である。外科の手術については食道がんや乳がんの手術にも対応していける体制が整った。
- 脳卒中センター（荒井センター長）  
入院患者数は毎年400件程度で推移している状況である。脳血管障害患者を地域別にみると構成市町が3割程度となっている。また、手術件数の減少については医師数減が影響していると思われる。tPA血栓溶解術の取り扱い件数については地域の先生方のご理解のおかげもあり、同等程度の医療機関と比較して多くの件数を実施できている。

#### (4) みやぎ県南中核病院に関する報告（内藤病院長）

- 市町別患者比率（外来・入院）  
平成18年度外来患者比率は、構成市町外の比率が19.4%であったが平成29年度時点では32.9%と増加し、入院患者比率についても平成18年度25.3%から平成29年度37.7%と増加している状況である。このような状況を踏まえ、規約の変更でも提案したとおり、当委員会の参集範囲については来年度以降仙南医療圏全体に拡大し実施していく予定である。
- 緩和ケア病棟入院患者数  
平均在院日数については、昨年度23.2日から今年度18.3日となり、在院日数を減らして運用できている。また、1日平均患者数についても平成30年度は9.5人であり、2年前と比較し増加している。仙南地域への認知も広がってきており入院待ちの患者も増えてきている状況である。
- 分娩件数について  
仙南医療圏の分娩件数は平成29年度より1,000件を下回り、現状当院では仙南医療圏の3人に1人程度の割合で分娩している状況である。また、分娩可能な施設も少なくなってきたおり、今後分娩件数が減っていくと予想される中で半分程度を当院で受けていきたいと考えている。
- 訪問リハビリテーション  
訪問リハビリテーションは、全国的には民間業者が参入している地域が多いが、現状仙南医療圏では民間業者の参入が少なく、当院が参考ケースとして実施し、民間業者へ患者を引き継いでいる状況である。なお、平成30年度6月と10月に民間業者へ患者を引き継いでいる。
- 訪問栄養指導  
平成28年度より開始した訪問栄養指導は、平成30年度624件と前年度より67件の増となっている。

#### (5) 診療事項に関する報告

- 新任医師紹介及び平成31年度診療科拡張について（内藤病院長）  
平成30年度3月末に20名の医師が退職し、31年度4月に25名の医師を迎え入れることとなった。乳腺外科医の着任、眼科常勤医の着任及び手術の開始、泌尿器科医の増加等により医師数は100名近くまで増加している状況である。
- 研修医に関する報告（佐藤消化器病センター長）  
平成31年度は9名の募集に対してマッチングは6名、1名は都合により迎え入れることができなかったが、4月より5名の研修医を迎え入れている。また、平成29年度の研修医に関しては3月末で研修を終了し、8名のうち4名が引き続き当院で勤務を続けている。内訳としては消化器内科2名、循環器内科1名、整形外科1名となっている。専門医制度の影響もあり採用者数が減っていると考えられるが、リクルート活動を強化して対応していきたい。
- カンファランス等医療連携実績報告（内藤病院長）  
医療介護総合確保基金の活用により地域2市7町の各市町の担当者に参集いただき、昨年度も3回の意見交換会を開催した。今年度もこの活動を実施していく予定である。
- 看護師募集に関する報告（佐藤看護部長）  
平成30年度の当院看護部の離職率については8.4%であり、全国平均10.9%、宮城県9.4%と比較しても低い離職率であったが、平成30年度採用者22名、退職者23名と看護師数の増加には至らず、平成31年度4月の新卒採用者についても16名の予定であったが、都合により2名減の14名となっている。平成29年度の10月から夜間保育の無償化を実施したが、利用は3名であった。今年度、看護管理者を招聘し、引き続き看護師確保の強化に努めていく。  
仙南医療圏においては、10万人あたりの看護師数が東北地方で下から3番目に低く、即効性、継続性のある取り組みを進めていくとともに宮城県に要望書の提出を行った。

#### (6) みやぎ訪問歯科・救急ステーションに関する報告（玉野井歯科医師会長）

開業から5年半が経過して、昨年度は月に60名程度の患者に対して合計80回程度の訪問を実施している状況である。地域別では、大河原町が最も多く67名、次いで柴田町が47名となっている。平成29年度から訪問回数が減少傾向にあるが、スタッフの影響による部分が

大きく今後改善していく予定である。中核病院の歯科口腔外科からの依頼は一定数あるが、今後は他の診療科からの依頼もいただければとのことであった。

(7) 夜間初期急患センターに関する報告（平井医師会長）

各月の受診患者数は100名程度であり、1月に関してはインフルエンザの影響もあり240名の受診患者数であった。患者の地域別比率については大河原町が最も多く30%、次いで柴田町が26.1%、角田市が13.2%と続いている。中学生以上を対象にしているが、19歳以下の患者数の割合も18.6%となっている。受診患者の主な傷病名としては急性上気道炎、インフルエンザの割合が多くなっている。

(8) 仙南地域料対策委員会からの報告（平井医師会長）

平成25年度より新たな運営体制に移行してから6年目を迎え、地域医療推進部会、地域保健・健康増進部会（生活習慣病対策）地域保健・健康推進部会（歯科口腔保健対策）の3部会ではそれぞれ対策会議・研修会を実施した。また、各部会に属さない事項の協議として調整会議を実施し、講演会については149名の参加があった。

令和元年より新たな体制により運営していく予定であり、今後理事会で検討されていく。

(9) 登録医アンケート結果の報告（荒井副院長）

例年登録医に依頼しているアンケート結果について、今年度より要約した内容を報告させていただくかたちに変更している。紹介のしやすさについては、現在登録医の23.8%の医師に納得いただけていない状況であり、当院担当医師の対応についても42.6%の医師に満足いただけていない状況である。新たな診療科の要望については、既に開設された診療科もあるが色々な要望をいただいている。通話記録を分析した結果、今年度の対策としては、「連携室の対応の迅速化、質の向上」、「診療科を指定できないような“曖昧”な疾患に対する対応」の2点について優先的に改善していきたい。

(注) 委員会の開催回数及び議論の概要については、前年度のものを記載すること。



## 8 患者相談の実績

患者相談を行う場所	相談窓口 (相談室・その他) 病棟面談室 )
主として患者相談を行った者 (複数回答可)	医療ソーシャルワーカー 猪狩光信、佐藤新奈、大村亜沙美、熊谷千夏、 山田嶺
患者相談件数	1,517 件 (新規介入件数) 4,759 件 (延べ対応件数)
患者相談の概要	
<p>「医療ソーシャルワーカー業務指針普及のための協力依頼について（平成14年11月29日付健発第1129001号厚生労働省健康局長通知）」により相談内容を分類している。</p> <p>(1) 療養中の心理的・社会的問題の解決、調整援助（平成30年度新規介入243件） 講じた対策等：入院のパンフレットに医療福祉相談室のご案内を折り込み、早期介入のきっかけとしている。必要時、院外の関係機関と連絡調整をおこなっている。</p> <p>(2) 退院援助（平成30年度新規介入1,148件） 講じた対策等：活用できる社会資源（制度、病院、介護施設）をパンフレットにして説明している。院内外の関係機関や多職種と連携している。</p> <p>(3) 社会復帰援助（平成30年度新規介入0件） 講じた対策等：社会復帰先と問題解決のための連絡調整をしている。</p> <p>(4) 受診・受療援助（平成30年度新規介入82件） 講じた対策等：医師と患者との信頼関係をもとに、患者のとりまく生活問題を把握して、医師・看護師と調整しながら問題解決につとめている。</p> <p>(5) 経済的問題の解決、調整援助（平成30年度新規介入44件） 講じた対策等：活用できる制度（高額療養費、公費負担等）をパンフレットにして説明し、必要時、市町役場の福祉課や医療保険の保険者と連携をはかっている。</p> <p>(6) 地域活動 講じた対策等：仙南地域医療対策委員会医療介護福祉連携推進事業担当者会議、外来ボランティア事務局、宮城県院内臓器移植コーディネーター（委嘱）、仙南医療圏地域包括ケアシステムについて情報交換会（地域医療介護総合確保基金事業）</p>	

(注) 患者相談の概要については、相談内容を適切に分類し記載するとともに、相談に基づき講じた対策等があれば併せて記載すること。また、個人が同定されないよう配慮すること。

9 その他の地域医療支援病院に求められる取組み（参考）

① 病院の機能に関する第三者による評価の有無	有 無
② 果たしている役割に関する情報発信の有無	有 無
③ 退院調整部門の有無	有 無
④ 地域連携クリティカルパスの策定	有 無

(注) 医療機能に関する第三者による評価については、日本医療機能評価機構等による評価があること。